

<様式1>

令和2年度 さいたま市立太田小学校 自己評価書

校長 千 明 勉 印

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 授業改善 ～「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりの推進～
 - ・『よい授業』の4つの因子を意識した授業の実践に努めましたか。」
- (2) 「4つの宝（あいさつ上手・聞き上手・話し上手・思いやり上手）」でみんなが笑顔
 - ・「お子さんは毎日元気に登校している。」
 - ・「教職員は、いじめのない学校づくりを目指し、お子さんと真摯に向き合っている。」
- (3) 「たくましく生きるための健康と体力」の育成
 - ・「お子さんは進んで体を動かしている。」
- (4) 家庭や地域と共に歩む学校づくりの推進
 - ・「学校は、学校行事、各種便り、ホームページなどを通して、地域に開かれた学校づくりに努めている。」
- (5) 学校における働き方改革の推進
 - ・『学校における働き方改革』の視点から、教職員が児童と向き合える時間の確保に取り組んでいたか」

2 評価結果について

(1) については、肯定的な評価をした教職員が95.7%であったが、そのうち、「よい授業」を意識して授業づくりに努めた最高評価は22.7%であった。(2) については、「元気に登校」「いじめのない学校づくり」の肯定的な評価をした保護者がそれぞれ96.5%、87.3%であった。令和元年度と比較すると1.6ポイント、5.3ポイント上昇した。全ての教職員が早期発見、早期対応を心掛け、組織的に生徒指導等に取り組んだ成果である。(3) については、肯定的な評価をした保護者が72.8%であった。令和元年度と比較すると、コロナ禍の影響を受けて、1.5ポイント低下した。(4) については、肯定的な評価をした保護者が90.2%であった。令和元年度と比較すると、1.4ポイント上昇した。コロナ禍に伴う家庭への連絡手段の一つとして学校ホームページ等を積極的に活用した。(5) については、肯定的な評価をした教職員が86.4%であった。11月から配置されたスクールサポートスタッフが教材や配付物等を印刷するなど、教員の業務負担の軽減が図られた。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- 授業改善については、教員の「不断の営み」であることから、日ごろの授業を含め、引き続き4つの因子のうちで、「めあて」「振り返り」を重視した授業づくりを推進する。
- 例えばあいさつ運動など、本校の宝の一つである、「あいさつ」を励行する取組を計画的、継続的に実施し、より多くの笑顔が生まれる働き掛けを充実させ、いじめのない学校を目指す。
- 「進んで体を動かす」ことについては、コロナ禍の影響を踏まえ、体育科の授業の充実及び朝、業間、昼の時間を活用した運動の取組の工夫など、次年度に向けて検討が必要である。
- 家庭や地域との連携については、GIGA スクール構想の実現を念頭に、より一層 ICT を活用した迅速で効率的な双方向のやり取りが実現できるよう、情報部会等を中心に検討する。
- 教職員の働き方改革については、年休や調整等の取得を励行するなど、今後も推進する。